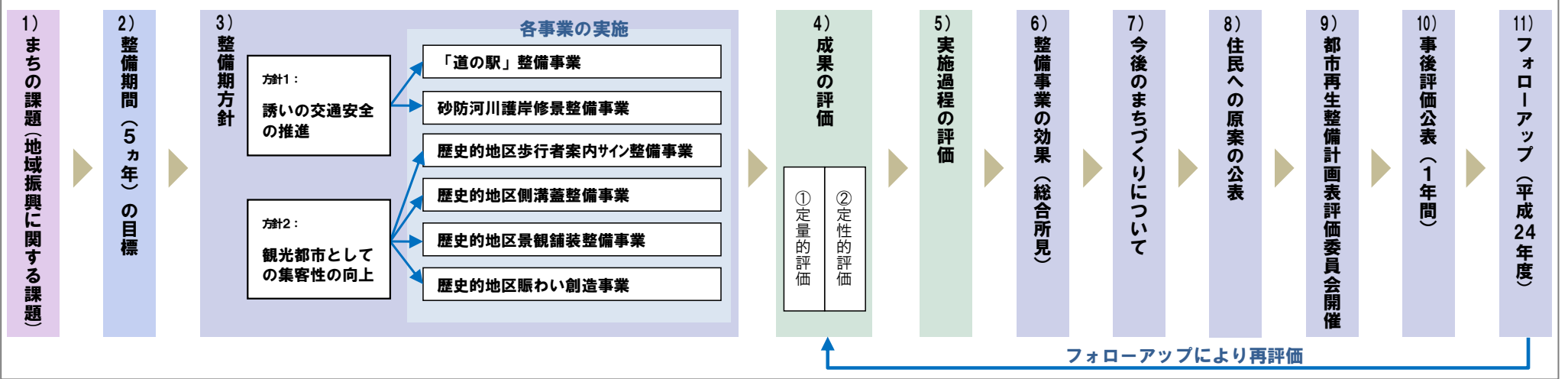


都市再生整備計画（事後評価）の流れ



都市再生整備計画 ■ 整備面積 25ha ■ 計画期間：平成 19 年度～平成 23 年度

1) まちの課題～地域振興に関する課題～

- ① 町並み保存地区の環境・周辺整備
- ② 駐車場、観光情報、物販コーナーの整備
- ③ 来訪者が散策しやすい町並み保存地区の環境づくり
- ④ 「憧憬の路」の継続発展

2) 整備期間（5カ年）の目標

- 大目標：保存地区を中心とした安全・安心・賑わいのある街づくり
- 目標1： 道の駅整備により、通過交通を誘客。また、災害時緊急避難所としても活用。
 - 目標2： 側溝蓋整備、案内・誘導サイン整備により、利便性向上を図り、保存地区の集客性アップ。

3) 整備方針

整備方針1：誘いの交通安全の推進

整備方針2：観光都市としての集客性の向上



※整備方針1による整備事業…赤色、整備方針2による整備事業…青色、両方の方針による事業…緑色とした。

平成 23 年度 事後評価

4) 成果の評価

① 定量的評価（数値指標による評価）

指標 赤:達成, 青:未達成	従前値	目標値 (H23 末)	評価結果 (5のみ確定値)
1 立寄台数(道の駅)(万台/年)	0.5(H17)	39	22.0
2 入込観光客数(万人/年)	55.0(H17)	66	64.6
3 町並み保存センター 入館者数(人/年)	21,600(H17)	26,000	22,474
4 道の駅施設利用者数(万人/年)	2.5(H21)	—	34.4
5 災害時における避難所 収容カバー率(%)	46.2(H20)	—	53.4
6 伝建地区入込観光客数(人/年)	27,278(H18)	—	35,408

② 定性的評価（数値で表されない効果）

【道の駅について】

1. ワークショップにより、住民によるまちづくり気運の高まり。市と住民との協働体制の構築。
2. 「気軽に入れる雰囲気」「駐車場利用のしやすさ」など快適性やアクセシビリティが向上。
3. 直売所・地域交流スペースなど多目的利用が可能であるため、まちづくり拠点としての賑わい創出。

【側溝蓋について】

4. 快適な歩行空間の確保による安心・安全性の高まり。

都市再生整備計画事後評価シート（本町地区）概要版

5) 実施過程の評価（住民参加プロセスやまちづくり体制）

～継続的なまちづくりを行うため、事業計画から結果までの過程を検証～

【住民参加】

（道の駅ワークショップ）

活用方法等について話し合い、地元住民の意見・要望を踏まえた「提言書」を作成。

【持続的なまちづくり体制】

（NPO 法人ネットワーク竹原）

伝建地区を中心に空家の再生、竹の楽器づくり等、積極的に事業を展開。

（竹原町並保存会）

町並みの景観保存を通して、生活文化の向上と住みよいまちづくりを推進。



▲道の駅ワークショップ風景
平成18年度に6回開催されました。



（主催）
社団法人竹原市観光協会・竹原市・
NPO法人ネットワーク竹原・竹原町
並保存会
資料：だけはら町並み観めぐりHP

6) 整備事業の効果【総合所見】

【達成指標（2, 4, 5, 6）について】

- 道の駅、案内・誘導サイン整備により、伝建地区への観光客が増加し、にぎわいが生まれた。
- 道の駅を観光やレジャーのついでに利用する人が多く、市内の観光施設を往来する人でのにぎわいができた。
- 道の駅の利用者の約2割は地元であり、地域活性化が期待できる。
- 災害時の避難施設となる道の駅整備により地区周辺の安全・安心が高まった。

【未達成指標（1, 3）について】

- 道の駅、案内・誘導サイン整備により道の駅への立寄る台数は増加したが、駐車マスの不足により、立寄台数は減少したと推測され、目標数値は未達成となった。
- 伝建地区へのアクセシビリティや利便性が向上したため、松阪邸、歴史民俗資料館等の利用者は増加したが、町並み保存センターは老朽化や展示物が変わらない等の魅力不足により、目標数値は未達成となった。

7) 今後のまちづくりについて

まちの課題の変化	今後のまちづくりの方策（改善策を含む）
<ul style="list-style-type: none"> ●魅力不足により、町並み保存センターへの入館者数は減少したため、町並み保存センターの魅力高める施策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●展示や収蔵、休憩および交流スペース、情報提供等の機能充実を図る。 ●また、新たに判明した都市変遷などを踏まえ、歴史的な背景を説明できるよう、魅力ある展示物のリニューアルを図る。 ●交流・休憩機能の強化を図り、回遊性の向上に努める。
<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅の整備により、地域の安全・安心が確保されたものの、伝建地区への観光客数をより増加させるためには、沿道施設の魅力向上策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ゴミのポイ捨て禁止や喫煙制限等の景観マナーに関する取組みやだれもが歩きやすい歩道空間の維持・管理に努める。 ●未利用になっている歴史的建造物の保存や再生等の検討を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ●伝建地区内は迷路のような構造であるため、本通りだけでなく、裏路地を含めた回遊性の向上策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●魅力ある裏路地の活用策として、飲食店、お土産屋、体験コーナー等の充実を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ●イベント「憧憬の路」の維持・継続はされているものの、近年の参加者数は減少傾向であるため、参加者増加に向けた施策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域住民が主体となり賑わいづくりに取組み、行政は側面支援を行う。 ●市内の地域団体との連携だけでなく、外（市外）との連携によるイベント実施や観光客と地域住民を結び付ける情報環境基盤・体制を整える。
<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅の防災拠点としての役割を周辺地域に対して一層の意識づけを行い、災害時のスムーズな利活用を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治会や地域にある既存の組織、団体などと連携し、自助・共助につながる防災啓発事業を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ●繁忙期、イベント時では道の駅の駐車場が満車状態になることが多く、駐車場を利用できない車への対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●臨時駐車場や伝建地区周辺の駐車場への誘導を図る。

8) 住民への原案の公表（広報・HP・窓口）意見募集

＜公表期間・公表日＞

平成23年11月8日～平成23年11月22日（2週間）

＜公表方法＞

市のホームページ掲載、市の広報誌、市建設課窓口などにて公表を行った。

9) 都市再生整備計画評価委員会開催

＜実施時期＞ 平成24年1月18日

＜委員構成＞ 岐美 宗 教授（広島商船高等専門学校教授）

木村 真紀子 様（竹原商工会議所副会頭）

原田 仁 様（元広島県農業会議事務局長）

10) 事後評価公表（1年間）

＜公表期間・公表日＞ 平成24年4月～平成25年4月（1年間）

＜公表方法＞ 市のホームページにて掲載予定

11) フォローアップ（平成24年度）

成果の評価時に“側溝蓋整備”および“景観舗装整備”が未整備であったため、

「4) 成果の評価」に立ち返りフォローアップを実施する予定です。



▲竹原市ホームページより抜粋（H23.11.8時点）



▲評価委員会の風景

●お問い合わせ先：竹原市役所建設産業部建設課

〒725-8666 広島県竹原市中央五丁目1番35号 TEL: 0846-22-7746 FAX: 0846-22-8579